
平成 23 年度事業報告書

I. 法人概況	P. 2
II. 総括	P. 6
III. 会務の概況	P. 7
IV. 本部活動報告	P.10
運営本部	P.11
教育事業本部	P.13
技術本部	P.16
ET 事業本部	P.27
V. 支部活動報告	P.29
北海道支部	P.29
東北支部	P.29
東京支部	P.31
中部支部	P.34
北陸支部	P.42
近畿支部	P.43
九州支部	P.47

I 法人の概況

1. 設立年月日 昭和 61 年 8 月 7 日

2. 定款に定める目的

本会は、組込みシステム業(マイクロエレクトロニクスの技術を応用した製品とこれを用いたシステムの開発、製造及び販売の事業をいう。以下同じ。)におけるマイクロエレクトロニクス応用技術に関する標準化の推進、権利の保護、調査研究等を行うことにより、組込みシステム業の技術の向上と利用者の利便性を高め、もって我が国産業の健全な発展及び国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 組込みシステム業におけるマイクロエレクトロニクス応用技術に関する標準化の推進
- (2) 組込みシステム業におけるマイクロエレクトロニクス応用技術に係る権利保護に関する調査研究
- (3) 組込みシステム業に関する調査研究
- (4) 組込みシステム業におけるマイクロエレクトロニクス応用技術に関する研修会、研究会等の開催
- (5) 組込みシステム業に関する内外関係機関との連絡強調
- (6) 組込みシステム業のマイクロエレクトロニクス応用技術に関する普及啓発
- (7) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

4. 所轄官庁

経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課

5. 日本標準産業分類

G3912 組込みソフトウェア業

6. 会員の状況

平成 24 年 3 月 31 日現在

	当期末	前期末	前期末比増減
正会員	180 社	200 社	△20 社
賛助会員	34 社	36 社	△2 社
合計	214 社	236 社	△22 社

7. 主たる事務所、支部の状況

(主たる事務所) 東京都中央区日本橋浜町 1-8-12 東実年金会館 8 階

(支部)

北海道支部 北海道札幌市中央区北 2 条西 3 丁目-1 札幌ビルディング 4 階

東北支部 宮城県仙台市青葉区昭和町 5-23 東杜シーテック(株)内

東京支部 東京都中央区日本橋浜町 1-8-12 東実年金会館 8 階

中部支部 愛知県名古屋市熱田区六番 3-4-41 (財)名古屋産業振興公社内

北陸支部 福井県福井市川合鷺塚町 61 字北稲田 10 (社)福井県情報システム工業会内

近畿支部 大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4 (財)大阪科学技術センター内

九州支部 福岡県福岡市早良区百道浜 2-1-22-904 福岡 SRP センタービル

8. 役員に関する事項

別紙のとおり

9. 職員に関する事項

平成 24 年 3 月 31 日現在

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
4 名	1 名	49.2 歳	9 年 9 カ月

10. 許認可に関する事項

特になし

<別紙>

社団法人 組込みシステム技術協会 役員・顧問
(平成 24 年 3 月 31 日現在)

(役職)	(支部)	(氏 名)	(常勤・非常勤)	(担当職務・会社名等)
会長	東京	築田 稔	非常勤	(株)コア
副会長	東京	長谷川 恵三	非常勤	(株)セントラル情報センター
副会長	東京	塚田 英貴	非常勤	(株)エヌデーデー
副会長	東京	藤木 優	非常勤	(株)ブライセン
副会長	近畿	杉本 浩	非常勤	スキルインフォメーションズ(株)
専務理事	(員外)	門田 浩	常勤	(社)組込みシステム技術協会
常任理事	北海道	中野 隆司	非常勤	(株)北斗電子
常任理事	東北	佐々木 賢一	非常勤	トライポッドワークス(株)
常任理事	東京	大橋 憲司	非常勤	(株)イーソルエンベックス
常任理事	中部	水谷 多嘉士	非常勤	東海ソフト(株)
常任理事	中部	佐藤 博昭	非常勤	萩原電気(株)
常任理事	北陸	進藤 哲次	非常勤	(株)ネスティ
常任理事	近畿	杉山 久志	非常勤	(株)暁電機製作所
常任理事	近畿	大石 正則	非常勤	(株)シーシェルコーポレーション
常任理事	九州	西 哲郎	非常勤	西日本コンピュータ(株)
常任理事	(員外)	鈴木 龍一	常勤	(社)組込みシステム技術協会
理事	東北	本田 光正	非常勤	東杜シーテック(株)
理事	東京	馬場 民準	非常勤	ガイオ・テクノロジー(株)
理事	東京	月原 優	非常勤	東電ユークエスト(株)
理事	東京	竹岡 尚三	非常勤	(株)アックス
理事	東京	梶 一哉	非常勤	アイ・メットエレクトロニクス(株)
理事	東京	山田 敏行	非常勤	横河ディジタルコンピュータ(株)
理事	東京	秋保 政一	非常勤	アルパイン(株) 技術本部
理事	東京	漆原 憲博	非常勤	(株)ジェーエフピー
理事	東京	中村 憲一	非常勤	アップウインドテクノロジー・インコーポレイテッド
理事	東京	廣田 豊	非常勤	TDI プロダクトソリューション(株)
理事	東京	星 光行	非常勤	(株)システムファクト 東京支社
理事	東京	池田 義雄	非常勤	東芝システムテクノロジー(株)
理事	東京	直井 徹	非常勤	(株)アプリックス
理事	東京	清成 友晴	非常勤	キャッツ(株)
理事	東京	小西 誠治	非常勤	(株)ソーワコーポレーション
理事	中部	脇田 周爾	非常勤	(株)ヴィッツ
理事	中部	青木 義彦	非常勤	(株)サンテック
理事	近畿	竹内 嘉一	非常勤	(株)日新システムズ
理事	近畿	松本 浩樹	非常勤	(株)コミュニケーション・テクノロジー
理事	(員外)	飯塚 悦功	非常勤	東京大学
理事	(員外)	片岡 正俊	非常勤	東京都立産業技術研究センター
理事	(員外)	兼本 茂	非常勤	会津大学
理事	(員外)	福田 晃	非常勤	九州大学

(役職)	(支部)	(氏 名)	(常勤・非常勤)	(担当職務・会社名等)
監事	近畿	小幡 忠信	非常勤	アルカディアシステムズ(株)
監事	(員外)	宇田川 重雄	非常勤	宇田川公認会計士事務所
名誉顧問		種村 良平	非常勤	(株)コア
顧問		松尾 隆徳	非常勤	東洋電機(株)
技術顧問		崎詰 素之	非常勤	(株)コア
参与	(員外)	大原 茂之	非常勤	東海大学
参与	(員外)	中島 達夫	非常勤	早稲田大学

理事：39 人

(内訳：会長 1 人、副会長 4 人、専務理事 1 人、常任理事 10 人、理事 23 人)

監事：2 人

顧問：3 人

参与：2 人

Ⅱ 総括

平成 23 年度の組込みシステム技術協会は、東日本大震災、海外経済の減速や円高に加え、タイの洪水など景況感が厳しいなか、JAPAN ブランドを支える業界団体として、組込み技術の調査研究、普及啓発及び人材育成、更には JASA ヴィジョンに基づいた新たなビジネス創設イベントやグローバル化への対応と幅広い活動を展開した。

運営本部では昨年に続き、国際委員会にて、JASA グローバルフォーラム、国際化推進ワークショップ、協業推進委員会では、東北復興支援を目的とした協業マッチング、CSAJ との共同にてアライアンスビジネス交流会を開催し、参加者より高い評価をいただき、盛況のうちに幕を閉じることが出来た。

教育事業本部、ETEC 試験事業では次年度以降の収益を改善すべく事業構造の再構築を終えるとともに、海外進出企業からのニーズに応じ国際化への準備を進め、次年度中国にてスタートを切ることになった。研修委員会では、学生を中心とした若年層に対し組込み技術の認知度を深めるべく技術セミナーの開催や、就職支援活動を含めた広報活動を展開した。また ET ロボコン実行委員会では、全国 338 チーム、1900 人による 11 地区での予選会からチャンピオンシップ大会と例年にない盛り上がりを見せた。

技術本部活動では組込み技術の高度化を目指し、それぞれの委員会が活発な調査研究活動を行い、オープンセミナーによる啓発活動に加え、恒例となった ET2011 セミナー会場にて成果発表会を実施した。

また当協会の普及啓発事業の柱である組込み総合展示会 ET2011 も、昨年を上回る来場者数を得て開催することが出来、盛況のうちに幕を閉じることが出来た。

平成 23 年度重点事業項目

1. JASA 活動の全国展開を図る
地方支部との連携による委員会活動推進
中国、四国地区への支部設立の検討
2. 協業力の強化推進
協業マッチング、アライアンスビジネス交流会の定例化
地方支部への展開
3. 国際化推進
グローバル化推進企画及び海外関連団体との連携強化
4. 組込みソフトウェア技術者試験（ETEC）の収益化推進
プロモーション企画等の支出の見直し、採算管理
5. 組込み技術の調査研究活動の活性化推進
公益事業として積極的情報発信
6. ET 展示会の拡充（公益事業を支える収益事業として維持拡大）
25 周年記念イベント開催

Ⅲ 会務の概況

1. 総会

通常総会（第 25 回） 平成 23 年 6 月 9 日（木） 品川プリンスホテル以下に示す議案が諮られ、承認可決された。

- 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告書（案）承認の件
- 第 2 号議案 平成 22 年度財務諸表（案）及び収支計算書（案）承認の件
- 第 3 号議案 平成 23 年年度事業計画書（案）承認の件
- 第 4 号議案 平成 23 年度収支予算案（案）承認の件
- 第 5 号議案 一般社団法人組込みシステム技術協会定款（案）承認の件
- 第 6 号議案 公益目的支出承認の件
- 第 7 号議案 第 5 号議案に伴う役員報酬総額承認の件
- 第 8 号議案 平成 23 年度、平成 24 年度理事及び監事専任の件
- 第 9 号議案 平成 23 年度、平成 24 年度員外役員専任の件

2. 理事会

平成 23 年 5 月 19 日から平成 24 年 3 月 15 日にわたり、計 6 回の理事会を開催

● 第 159 回理事会 平成 23 年 5 月 19 日（木） 於 東実年金会館 4 階大会議室

議事

- 1) 支部活動報告（北海道、東北、東京、中部、北陸、近畿、九州） 【報告】
- 2) 事業本部報告（運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部） 【報告】
- 3) 新入会員の承認及び、平成 22 年度退会企業報告 【審議・報告】

①イーエルシステム㈱ （正会員／近畿）

②有限会社シンビー （正会員／東京）

- 4) 平成 22 年度 事業報告書(案)について 【審議】
- 5) 平成 22 年度 財務諸表(案)及び収支計算書(案)について 【審議】
- 6) 平成 23 年度 組織体制について 【審議】
- 7) 平成 23 年度 事業計画(案)について 【審議】
- 8) 平成 23 年度 収支予算書(案)について 【審議】
- 9) 平成 23 年度、24 年度理事及び監事選任について 【審議】
- 10) 平成 23 年度、24 年度員外役員選任について 【審議】
- 11) 一般社団移行に向けて 【審議】
 - ・一般社団法人組込みシステム技術協会定款(案)について
 - ・公益支出計画(案)について
 - ・一般社団法人移行後の定款変更に伴う役員報酬総額について
- 12) その他 【報告】
 - ・ ETEC 中国展開について ・ 東北企業支援について ・ 後援、協賛等受諾報告

● 第 160 回理事会 平成 23 年 6 月 9 日（木） 於 品川プリンスホテル

議事

- 1) 通常総会資料一式のご確認 【確認】

● 第 161 回理事会 平成 23 年 9 月 15 日（木） 於 東実年金会館 4 階大会議室

議事

- 1) 事業本部報告（運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部）【報告】
- 2) 支部活動報告（北海道、東北、東京、中部、北陸、近畿、九州）【報告】
- 3) 新入会員の承認及び、平成 22 年度退会企業追加報告【審議・報告】
 - ①ビープレイス(株)（正会員／東京）
 - ②(株)クレスコ（正会員／東京）
 - ③(株)KSK システムコア事業部（部門会員／東京）
 - ④日本プロセス(株) 組込システム事業部（部門会員／東京）
- 4) 平成 23 年度上期収支状況見込みについて【報告】
- 5) 年会費について【協議】
- 6) 平成 23 年度事業本部・委員会体制について【審議】
- 7) 一般社団法人移行認可申請の誓約書について【報告】
- 8) CMSiS 導入についてについて【審議】
- 9) その他
 - ・平成 24 年社員総会日程変更について【報告】
 - ・後援、協賛等受諾の報告【報告】
 - ・経産省 野田係長様より「中小ものづくり高度化法の技術指針改正について」

● 第 162 回理事会 平成 23 年 11 月 16 日（木） 於パシフィコ横浜会議棟

議事

- 1) 平成 23 年度上期収支状況について【報告】
- 2) 一般社団法人への移行関連
 - ・一般社団法人移行認可について【報告】
 - ・定款の変更について【審議】
 - ・一支部交付金制度の廃止（案）について【協議】
- 3) 情報セキュリティ対策認証に向けた規程類の改定について【報告】
- 4) プラグフェスト開催について【報告】
- 5) 事業本部報告（運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部）【報告】
- 6) 支部活動報告（北海道、東北、東京、中部、北陸、近畿、九州）【報告】
- 7) 新入会員の承認【審議】
 - ①(株)イーシーエス（正会員／中部）
- 8) その他
 - ・後援、協賛等受諾報告【報告】
 - ・理事会報告資料について【報告】

● 第 163 回理事会 平成 24 年 1 月 12 日（木） 於 品川プリンスホテル

議事

- 1) 事業本部報告（運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部）【報告】
- 2) 支部活動報告（北海道、東北、東京、中部、北陸、近畿、九州）【報告】
- 3) 新入会員の承認【審議】
 - ①(株)システムプランニング（正会員／近畿）
 - ②(株)ユビキタス（部門会員／東京）
- 4) 中小企業人材確保推進事業助成金について【報告】
- 5) その他【報告】
 - ・支部予算策定について
 - ・後援、協賛等受諾報告
 - ・プラグフェスト開催について

● 第 164 回理事会 平成 24 年 3 月 15 日（木） 於 東実年金会館 4 階大会議室

議事

- 1) 事業本部報告（運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部） **【報告】**
- 2) 支部活動報告（北海道、東北、東京、中部、北陸、近畿、九州） **【報告】**
- 3) 新入会員の承認 **【審議】**
- 4) 平成 24 年度 事業計画(案)について **【審議】**
- 5) 平成 24 年度 収支予算書(案)について **【審議】**
- 6) 一般社団移行に向けて **【審議】**
 - ・一般社団法人組込みシステム技術協会定款(案)について
 - ・公益支出計画(案)について
 - ・一般社団法人移行後の定款変更に伴う役員報酬総額について
- 7) その他 **【報告】**
 - ・ ETEC 中国展開について
 - ・ 東北企業支援について
 - ・ 後援、協賛等受諾報告

3. 会員の變動状況

前年度期末会員数は、正会員 200 社、賛助会員 36 社の合計 236 社であった。期中において、正会員 9 社の増加があったが、退会が正会員 29 社、賛助会員 2 社の減少があったため、本年度期末会員数は、正会員社 180 社、賛助会員 34 社の合計 214 社となった。

新入会員

（正会員）

1. イーエルシステム(株) (正会員／近畿)
2. 有限会社シンビー (正会員／東京)
3. ビープレイス(株) (正会員／東京)
4. (株)クレスコ (正会員／東京)
5. (株)KSK システムコア事業部 (部門会員／東京)
6. 日本プロセス(株) 組込システム事業部 (部門会員／東京)
7. (株)イーシーエス (正会員／中部)
8. (株)システムプランニング (正会員／近畿)
9. (株)ユビキタス (部門会員／東京)

IV 本部活動報告

平成 23 年度事業の推進は下表の本部組織にて行った。

平成 23 年度 JASA 事業本部組織表

本部名	委員会/研究会名	WG 名	公益支出事業
運営本部	総務委員会		
	支部設立委員会		
	広報委員会	機関誌発行 WG HP 管理 WG	事業番号 1
	国際委員会		
	協業推進委員会		
教育事業本部	ETEC 試験委員会	問題作成 WG	事業番号 2
	研修委員会		
		研修事業推進事業 WG	
	ET ロボコン実行委員会		
技術本部	技術セミナー委員会		事業番号 5
	安全性向上委員会	セキュリティ WG	事業番号 4
		製品安全 WG	
	OSS 活用委員会	OSS ライセンス WG	事業番号 3
		組込み仮想化技術 WG	
	実装品質強化委員会		事業番号 3
	ハードウェア研究会		事業番号 3
	プラットフォーム研究会		事業番号 5
	状態遷移設計研究会		事業番号 3
ET 事業本部	モデルベース開発・検証研究会		事業番号 3
	ET 実行委員会		
	ETWest 実行委員会		

<参考>公益支出事業

- 事業番号 1 組込み技術を普及するための海外及び国内調査研究
- 事業番号 2 組込み技術を担う技術者育成のための能力試験およびセミナーの実施
- 事業番号 3 開発高度化事業
- 事業番号 4 安全・安心関連事業
- 事業番号 5 技術啓発・人材育成事業

運営本部

広報委員会

1. 機関誌発行 WG

協会機関誌「Bulletin JASA」を4回発行した。

広報誌としての情報発信機能を強化し、併せて会員連携の促進と新規会員勧誘の機能を具備した有効なメディアとして記事内容の拡充を図った。

6月15日 Vol. 38 発行 ETWest 特集・会場配布号

9月13日 Vol. 39 発行

11月16日 Vol. 40 発行 ET2011 特集・会場配布号

1月12日 Vol. 41 発行 新年号

2. HP 管理 WG

技術セミナー委員会とメンバーを共通にし、毎月定例会を開催した。

協会活動の広報を目的として、協会イベントと委員会活動、会員情報、コラム等を掲載し迅速な情報発信を行った。

また、HP コラムの特別編として、会員企業の若手技術者による座談会第2弾「10年後の将来像を語る」を企画・開催。座談会の模様をHPに載せるとともにBulletin JASAのコンテンツとして Vol. 38に掲載した。

国際委員会

1. 国際委員会の定期開催

- ・委員会を隔月に計6回開催。
- ・毎回識者を委員会に招き、委員会としての課題を探るため、「委員会スピーチ」を行った。

2. 「委員会スピーチ」の実施

- (1) 「世界一の親日国__バングラデシュのソフトウェア開発リソース」 (4月20日)

㈱BJIT 代表取締役社長 林 信宏 氏

- (2) 「アプリックス国際化の取り組み」 (6月22日)

㈱アプリックス 取締役社長 兼 COO 直井 徹 氏

- (3) 「フィリピンと ITO/BPO 現状と将来」 (8月31日)

ASJ㈱ 代表取締役社長 神田 茂 氏

- (4) 「中国・成都及び成都ウィナーソフトのご紹介と協業ビジネスについて」 (12月15日)

- (5) 「ベトナム ICT 産業状況及び VINASA 活動の紹介」 (2月14日)

Luvina Software J.S.C 代表取締役社長 レ・クアン・ルオン 氏

3. 「JASA グローバルフォーラム 2011」開催

海外協会との交流促進と、国内企業へのグローバル情報の提供を目的に、「JASA グローバルフォーラム」を企画し、ET2011の併催イベントとして、11月17日にパシフィコ横浜 会議センターで開催し、経営に携わられる方を中心に105名が参加した。

- ・テーマ「中国・インド企業とのコラボレーションに向けて」
- ・講演
「「日中合作」中国企業とのコラボレーションに向けて」

アルパイン(株) 相談役 沓澤 虔太郎 氏

「ここまで来た中国オフショア開発」

NEUSOFT Japan (株) 第1システム事業部 技術顧問 新川 隆朗 氏

「最近の印度と印度ソフトの活用について」

ジェネシス (株) 代表取締役 西山 征夫 氏

「インド設計会社への設計委託について」

のぞみ (株) 代表取締役 高田 淑朗 氏

4. 第2回「JASA 国際化推進ワークショップ」の開催

会員企業及び JASA 外部企業の海外進出に関する情報提供の一環として「JASA 国際化推進ワークショップ」を平成24年2月24日(金)に開催し、約50名が参加した。

- ・テーマ「オフショア・ソフトウェア開発の展望

～～委託側と受託側の相互理解を深めるために～」

- ・基調講演

「IT分野でのアジア各国の注目ポイントと我が国が目指すべき方向」

経済産業省 基準認証国際室／工業標準調査室 室長 山本 雅亮 氏

- ・事例紹介

「組込みソフト企業における中国ビジネス事例」

ー弊社における中国法人設立の背景と今後の展開ー

オムロンソフトウェア(株)インタストリアルソフトウェア開発セクタ長 河野 智樹 氏

「モバイルプラットフォームの Global 展開」

ーRenesas Mobile の PF 展開ー ソフトウェア会社に期待されること

ルネサスモバイル(株)ビジネスデベロップメント統括部統括部長 吉本 晃 氏

「中国成都の概況及び日本の組込み産業にとっての可能性」

成都ウィナーソフト有限公司 総裁 周密 氏

5. 海外協会への委員派遣

- ・海外協会との交流を促進することを目的に、委員を含めた一般公募の上、海外協会を訪問した。

- ・台北市コンピュータ協会(TCA) 台湾(台北市:6月2日～4日)

TCA と意見交換、Computex TAIPEI 2011 視察、TCA メンバーとの情報交流会

6. JASA ホームページ「JASA 国際だより」、機関誌「Bulletin JASA」への投稿

会員企業及び JASA 外部に対する情報提供と広報活動への貢献のため、委員会から情報発信を行った。

- ・JASA ホームページ「JASA 国際だより」

(1)TCA 訪問及び、Computex TAIPEI 視察報告

(2)「JASA グローバルフォーラム 2011」開催報告

(3)第2回「国際化推進ワークショップ」開催報告

- ・機関誌「Bulletin JASA」

(1)JASA 国際だより「TCA 訪問及び Computex TAIPEI2011」視察報告 (vol. 39)

(2)「JASA グローバルフォーラム 2011」開催報告 (vol. 41)

協業推進委員会

1. 協業イベント(第2四半期)

東北地域高度 IT 成長産業振興・発展対策活動事業の関係推進者会議と合同で

「協創/協業フォーラム」を9月9日に開催した。

開発企業側の技術プレゼンを二つの基調講演に挟み、その後の交流会の場において、展示会

を併設するスタイルで開催し、出席者総数 105 名の出席者を得た。

特にプレゼンと展示をシンクロさせ、交流会の場で展示説明を行うスタイルは、出展者と来場者の接点が多く持つことが可能となり好評であった。

2. 支部とのタイアップイベント(第 4 四半期)

地方の開発系企業と JASA 支部との関係を強化し、JASA を地域にアピールするとともに、将来的には川中・川下との協業イベントを開催すべく、支部とのタイアップイベントを本年度より開始した。

本年度は九州支部と支部の会員、地域関係団体・企業との交流を目的に 2 月 10 日に開催し、同業他団体のイベントと日程が重なったにもかかわらず 43 名の集客があった。

講演は「東日本大震災復興支援活動『IT で日本を元気に！』」と題して佐々木東北支部長が生声を通して BCP や復興について力説された。企画は、来場者には好評で次年度以降の継続開催を望む声が多かった。

3. CSAJ との合同イベント(第 4 四半期)

平成 22 年度に引き続き、アプリケーション等、プロダクトの販社とのマッチングイベント「アライアンスビジネス交流会」を CSAJ と合同で開催し、総勢 69 名の出席者を得た。

JASA 会員 2 社からは開発支援ツールとコンサルティングを伴う受託開発ビジネスモデルをプレゼンし、その後の交流会は多くの方と意見交換が持てる場となっていた。

4. その他(第 4 四半期)

会員の業務概要/保有技術を業界に広くアピールするため、JASA ホームページ内の会員紹介サイトにおいて、会員情報の検索を可能とすべく、平成 24 年度用会員情報の収集にあたっては、保有技術等の確認を行った(任意選択)。

教育事業本部

研修委員会

1. 求人系調査(第 2 四半期)

企業が求める、新入社員の技術スキルと採用状況に関する調査を会員向けに実施し、101 社(対象 190 社)より回答を得た。

調査結果は、JASA Web サイトでの公開し、イベントでのプレゼンに活用した。

2. 学校法人への情報提供(年 4 回)

Bulletin JASA を年 4 回、組込み技術系コースのある学校法人(約 150 校)に送付した。上記調査結果概要の同封や ET 展等の案内も同封し、指導者層、学生へ情報提要进行を進めた。

3. ET-West2011/ET2011(6 月・11 月)

上記調査結果を ET-West ならびに ET の会場にてフリープレゼンテーションを開催した。上記の学校法人への情報提供の効果もあり、学校法人の来場者が増え、接点が強化された。

4. インターンシップ導入推奨(第 4 四半期)

平成 22 年度に「インターンシップガイドライン」を作成し、JASA Web サイトに公開したが、

利用を促進するため、導入企業の好事例等を聴取して、Bulletin JASA 等の媒体を介してアピールしていくことにした。

本年度に調査項目を策定し終わり、平成 24 年度に調査・分析、公開することになった。

ETEC 試験委員会

1. 受験者数の推移

平成 23 年度(4～3 月)の延受験数 1,114(前年度比－25%)であった。1/4 減少したが、受験者比率では、個人受験と学生は僅かだが伸びている。企業負担受験層が実数で 400 件ほど減っており、IT 系他試験の受験者動向と同様に東日本大震災の影響を受けた結果と考えられる。

2. 海外施策(中国展開)

平成 23 年春より導入を検討していた、中国展開については、試験問題翻訳、運用委託先、試験販売提携先との契約が整い、平成 24 年度第 1 四半期より中国全土(250 の試験会場)で受験できる体制が整った。

3. 運用委託先

運用コストのうち、「固定費」を削減すべく、第 4 四半期に委託先の公募を行った。

その結果、平成 24 年度委託契約より固定費を大幅に削減し、受験数の変動によるリスクを極力回避できる態勢が確保された。運用の切り替えは平成 24 年度第 1 四半期を予定する。

4. 試験問題の精査(問題作成 WG)

ETEC クラス 2 試験の解答データ(回答率・正答率・所要時間と総点の相関関係等)を解析し、精査の上、約 20%の問題の見直しを行った。平成 24 年度差し替えを行う。

ET ロボコン実行委員会

2011 年の特筆事項として、東北地区大会が前年度と同等規模で開催された事が挙げられる。3.11 の大震災という困難を乗り越え参加されたチームの皆様、ならびに支援をいただいた東北地域の方々に、この場を借りて敬意を表します。

1. 参加チーム数

2011 年度は、2010 年より若干減少したが 338 チームが参加した。各地区と参加チーム内訳は、下記のとおりである。

	全国	北海道	東北	北関東	東京	南関東	東海	北陸	関西	中四国	九州	沖縄
企業	177	6	11	2	63	26	34	5	14	5	10	1
大学	65	4	6	2	12	7	7	4	2	4	14	3
短大	7	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	2
専門	19	0	3	1	2	3	3	0	2	0	4	1
高専	23	3	5	2	0	0	1	1	0	4	4	3
高校	14	0	5	2	1	2	1	0	0	0	1	2
個人	31	1	0	2	4	5	6	1	8	3	0	1
特別	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	338	14	34	11	82	43	53	11	26	16	35	13
CS出場	52	3	5	2	12	6	7	2	4	3	5	3

2. スケジュール

2011 年度の全体スケジュールはほぼ例年通りで、下記のとおりである。

	北海道	東北	北関東	東京	南関東	東海	北陸	関西	中四国	九州	沖縄
記者発表会	2/14(月) 14:30-16:00 ふくい南青山291(南青山)										
実施説明会	3/6(日)	2/17(木)	2/17(木)	2/23(水)	3/5(土)	2/27(日)	3/5(土)	2/27(日)	3/19(土)	3/5(土)	2/18(金)
参加申込締切	【参加申込開始】3/7(月) 【参加申込一般締切】4/6(水)17時 【特別延長】4/30(土)17時										
技術教育1 (モデル編)	5/22(日)	5/15(日)	5/21(土)	5/20(金), 21(土)	5/22(日)	5/15(日)	5/28(土)	5/28(土)	5/22(日)	5/21(土)	5/21(土)
技術教育2 (開発環境編)	6/4(土)	5/22(日)	6/18(土)	6/10(金), 11(土)	5/29(日)	6/19(日)	6/11(土)	6/25(土)	6/18(土)	6/25(土)	6/18(土)
地区独自 技術教育	6/11(土)	6/11(土)			6/12(日)		6/25(土)	6/25(土) 7/30(土)	7/23(土) 10/10(祝 月)		
試走会1	8/27(土)	7/18(祝・ 月)	8/6(土)	7/23(土), 24(日)	7/16(土), 17(日)	8/27(土)	7/23(土)	8/21(日)	8/20(土)	7/23(土)	8/6(土)
試走会2	10/1(土)	8/20(土)	9/ 3(土)	8/20(土), 21(日)	10/1(土), 2(日)	9/10(土)	8/27(土)	9/4(日)	9/4(日)	8/20(土)	9/10(土)
地区独自 試走会		8/27(土)			8/27(土), 28(日)		9/10(土)				10/1(土)
地区大会	10/9(日)	9/3(土)	10/1(土)	9/23(金・ 祝), 9/24(土)	10/8(土), 9(日)	9/24(土), 25(日)	9/17(土)	9/18(日)	9/24(土)	9/3(土), 4(日)	10/8(土)
チャンピオンシップ 大会準備	出場チーム決定後～11/15(火) 参加チームのレベルアップ期間										
CS試走会	チャンピオンシップ大会試走会 10/22(土) 東京電機大学 お茶の水アネックス										
チャンピオンシップ 大会	ET2011併催イベント 11月16日(水) 競技会、懇親会(パシフィコ横浜 会議棟3F 301+302) 11月17日(木) モデルリングワークショップ(パシフィコ横浜 会議棟3F 302)										

各地区大会で成績優秀なチームが、チャンピオンシップ大会(ET2011 併設)に出場。

チャンピオンシップ大会 競技会：11 月 16 日（水）、ワークショップ：17 日（木）

例年、チャンピオンシップ大会は、40 チーム出場だが、2011 年度は ET ロボコン 10 周年記念として、+12 チーム追加し、計 52 チーム実施。内訳は下記のとおり。

企業 34、個人 2、大学 11、高専 4、高校 1。

2011 年は、52 チーム中 16 チームが学生チームと、昨年ほどではないが、学生チームが健闘。さらに、昨年の傾向として、モデル部門の 1 位のチームが競技でも 1 位になるケースが多くあり、良いモデルは良い結果につながるとい、ET ロボコンが目指す教育効果が浸透してきていると思われる。

11/4 日～5 日の 2 日間、岩手県(花巻)にて、チャンピオンシップ出場チームのモデル審査合宿を行った。

審査には 23 人の審査委員が出席。その席に、IPA から一人審査委員を出して頂けることになった。

昨年は、IPA の他に、情報処理学会から、「学生奨励賞」も創設された。

チャンピオンシップ大会の結果は、下記のとおり。

順 位	チーム名	参加資格	地 区	所 属	地 域
総合優勝	HELIOS	企業	東海	(株)アドヴィックス	愛知県
総合準優勝	おやじプログラマーズ	企業	東海	(株)エイ・ダブリュ・ソフトウェア	愛知県
総合3位	Champagne Fight	企業	北海道	リコーIT ソリューションズ(株) ES 事業部	札幌市

各賞は、下記のとおり。

TOPPERS 賞

チーム名	参加資格	地区	所 属	地 域
雷鳥33号 金沢行き	企業	北陸	NEC ソフトウェア北陸	石川県

IPA 賞

チーム名	参加資格	地区	所 属	地 域
BERMUDA	企業	南関東	㈱富士通コンピュータテクノロジー ーズ	神奈川県

情報処理学会若手奨励賞

チーム名	参加資格	地区	所 属	地 域
はばたき隊	大学	九州	九州大学院システム情報科学 府情報学専攻	福岡県

技術本部

技術本部は、組込み関連技術の調査研究と普及啓発活動として各委員会・研究会・WG の統括、推進した。

1) 5/26 に 22 年度の各委員会・研究会・WG の成果発表会を実施、会員及び外部へ成果の普及に努めた。また、成果発表の評価も行い、最優勝賞、優秀賞、努力賞を決め、表彰した。

2) 技術本部会議を 4/19、5/26、7/7、9/14、10/19、12/14、2/15 に実施し、各委員会・研究会・WG の活動実績を理事会に報告した。

3) ET2011 にて技術本部セミナーを実施し、調査研究成果の組込みシステム業界への普及に努めた。

4) 2011/2/15 に H24 年度の各委員会・研究会・WG の事業計画と予算のヒアリングを実施した。

セミナー委員会

2011 年度を通じて 4 回の JASA/ET セミナーを運営。他に地方開催セミナーを 2 回開催、セミナー運営・企画・検討会議を年 9 回開催した。

JASA/ET セミナー

1) 第 26 回 2011/7/27(水)

『メトリクスによるソフトウェアの定量的品質評価と改善』 有料受講数：18 名
講師：早稲田大学 鷺崎 弘宜氏、 ヤマハ(株) 小池 利和氏

2) 第 27 回 2011/11/8(火)

『開発文書の新時代 ～文書品質を上げて開発力アップ～』 有料受講数：19 名
講師：名古屋大学 山本 雅基氏、 合同会社イオタクラフト 塩谷 敦子氏

3) 第 28 回 2011/12/2(金)

『ソフトウェアプロダクトライン再入門～いまなら聞ける SPL のホントの話～』
講師：イーソル(株) 宿口 雅弘氏、 セイコーエプソン(株) 島 敏博氏
有料受講数：15 名

4) 第 29 回 2012/1/19(木) プラットフォーム研究会共催

『ロボット分野におけるデバイスおよび組込みソフトウェアの動向』
講師：日本マイクロソフト(株) 太田 寛氏、産業技術総合研究所 神徳 徹雄氏
受講者数 60 名、内有料受講数：13 名

地方開催

1) フロンティア 21 エレクトロニクスショー2011(名古屋国際会議場)

【組込みシステム技術セミナー】2010/11/15(火) 中部支部共催
聴覚神経機構を FPGA 上に実現したサウンドウォッチャー
ー聴覚障がい者や高齢者のための音の見張り番ー
ALTERA FPGA を利用した組込み設計の最新動向
FPGA の技術進化と拡大するその適用範囲

2) 「東北 IT ソリューション EXP02011」会場(仙台市 アエル 6F セミナーホール)

【基調講演】2011/10/18(火) 東北支部共催
①ネットワークコンテンツ技術の将来展望
②組込み技術とクラウドが創り出す新たな情報社会

安全性向上委員会

安全性向上委員会は、2つのテーマを各 WG に分けて活動を進めた。成果は技術本部成果発表会にて、発表した。

また、啓発活動として、ET-WEST(6月)、ET2011(11月)、JPCA-show2011(6月)にて機能安全に関する紹介と、コンパクト ISMS(CMSiS)の紹介を行った。

年 9 回の会議を実施した。

製品安全 WG

2010 年度まで、JKA 補助事業として、4 年にわたり、機能安全の基本事項と関連規格の調査研究を進めてきた。また、啓発活動として、機能安全関連製品調査と安全用語集の整備に注力してきた。

2011 年度は、3.11 の東日本大震災があり、機能安全の限界を意識せざるを得ず、災害対策(外部からの脅威)にもテーマを拡げることにした。また、ISO 26262(11/15 発行)に関連して

A-SPICE への関心が高く、A-SPICE の調査・研究を行った。結果は ET-WEST、ET2011 にてセミナー開催の形で啓発活動につないだ。

機能安全関連の製品調査は、今年も実施した。今年の特徴は、計測制御展や SCF（システムコントロールフェア）への出展が減り、ET2011 の展示が増えたこと、航空機向けで実績のあるツールや OS など、ソフトウェア製品が増えていることである。

セキュリティ WG

前年度は組込みシステムにおいて、どのようなことが情報セキュリティ上の脅威として存在するのかを研究したが、本年度は、実際に組込みシステムを開発する場合を想定して、情報セキュリティの要求仕様はどのようなものであるかを調査研究した。その他、啓発活動、関連調査を行った。

1. 情報セキュリティの要求仕様に関する調査研究

情報セキュリティの要求仕様に関しては、各国共通の情報セキュリティ評価認証制度である ISO/IEC 15408 に基づくセキュリティターゲット (ST) 文書が一般的であるので、ST として IC カードに関する仕様文書を選び、当委員会のアドバイザー萱島信氏 (IPA) より、ST の見方、書き方に関する研修を受けた。

またこの研修を理解するために、冊子『CC (セキュリティコモンクライテリア) 評価を理解するための開発者向け説明会』 (IPA テキスト) を WG にて事前に学んだ。

2. 情報セキュリティ管理に関する監査制度開発

情報セキュリティ管理の重要性を踏まえ、小規模企業でも実施可能な情報セキュリティ監査制度「CMSiS: Compact Management System for information Security」を開発した。CMSiS は ISMS (ISO 27001) の趣旨を生かし、小規模組織、組込みシステム開発業と対象を絞り込むことにより、必要最低限のコストで情報セキュリティ管理を保証するものになっている。

3. 啓発活動

1) JPCA-show2011 「ものづくりフェスタ」 (6 月 1 日)

- ・「情報資産を定義「しがたい」情報セキュリティへの技術対策」 (IPA 萱島信氏)
- ・「“CMSiS” の提案」 (三輪委員)

2) ET2011 (11 月 16 日～18 日)

- ・「“CMSiS” の紹介」 (三輪委員)

4. 情報セキュリティソリューションの調査報告

ET2011 出展会社における情報セキュリティ関連製品の調査研究 (有家委員)

OSS 活用委員会

OSS 活用委員会は、OSS 仮想化 WG と OSS ライセンス WG に分かれ活動している。

OSS 仮想化 WG

■ 活動概要

日本の組み込み仮想化市場が形成されるように、議論と活動を行った。

技術的な標準を考える前に、用語の標準化と、仮想化技術を正しく知らせる資料作りが重要であるとの結論に基づき活動中である。

23 年度は、新しく、仮想化技術の定量的評価の指標作りを行った。まず、組み込み仮想化技術を評価できる要素を議論した。それに基づき、ベンチマーク・プログラムを収集し、その結果を一元的に出せるようにした。

そのベンチマーク一式を、WG メンバー各社の仮想化基本ソフトウェア(いわゆるハイパバイザ)で実行し、その結果を WG 内で開示した。その結果を元に、仮想化技術に共通の特性と、各社の基本ソフトウェア固有の特性を比較できるようになった。また、最初のベンチマーク結果を元に、さらに測定すべき項目についても議論を始めることができた。

今回、まとめた組み込み仮想化技術ベンチマーク一式は、JASA として公開し、日本発の、組み込み仮想化のための定量評価ツールとして普及を目指す予定である。

また、新たに、仮想化技術をどういう応用システムで採用すれば効果的かを、利用者にわかりやすく示すことができる、ユースケースを収集しまとめる作業を始めた。

なお、仮想化技術を提供している各社を招き紹介をいただくこと、各社の仮想化技術を、一元的に比較できる比較表の更新、関連する議論など、従来の活動も継続して行った。

■ 活動詳細

2011/5/31 第 1 回会議

- ・ H22 年度に引き続き議論をした。H23 年度に行うべきことについて議論した。

2011/6/29 第 2 回会議

- ・ ベンチマーク項目について議論
- ・ ユースケースについて、多面的に議論
- ・ 割込みアーキテクチャの図について議論
- ・ 啓蒙資料の内容について議論

2011/7/27 第 3 回会議

- ・ ベンチマークの要素について深く議論

2011/8/23 第 4 回会議

- ・ AXE 社にて、AXE 社製ハイパバイザ「蛭」に対して、ベンチマークを実施
- ・ その結果をもとにベンチマークの採り方などについて議論。

2011/9/23 第 5 回会議

- ・ ベンチマーク・プログラムを拡充

- ・引き続き計測された AXE 社製「蛍」の結果について、基本ソフトウェアの特性について議論
- ・ベンチマークの採り方などについて引き続き議論

2011/10/26 第 6 回会議

- ・引き続き計測された AXE 社製「蛍」の結果について、基本ソフトウェアの特性について議論
- ・ベンチマークの採り方などについて引き続き議論

2011/11/24 第 7 回会議

- ・AXE 社にて、AXE 社製「蛍」に対して、ベンチマークをかけた結果を提出。
- ・その結果について議論し、ベンチマーク・プログラム一式についてはほぼ収束

2011/12/21 第 8 回会議

- ・ベンチマークのまとめ方などについて議論
- ・ベンチマーク結果についても、引き続き、深く議論

2012/1/25 第 9 回会議

- ・プロモーション/啓蒙活動を行うことを議論
- ・次年度のベンチマークについて、議論
- ・ユースケースについて議論

2012/2/23 第 10 回会議

- ・ベンチマーク一式を RedBend 社に引き渡しの確認
- ・ベンチマーク結果についても、引き続き、深く議論

2012/3/28 第 11 回会議

- ・RedBend 社の製品の紹介を頂いた
- ・RedBend 社でのベンチマークを実施した報告を頂いた。ベンチマークは問題なく実行できた。ベンチマーク結果の開示は、フランス本社との関係で保留(数ヶ月以内に WG 内で開示される可能性が高い)
- ・パナソニックが発表した仮想化技術の紹介を頂いた
- ・次年度に行う内容に関して、議論、確認などを行った

■ 活動成果

JASA 版 組込み仮想化技術用ベンチマーク一式

ベンチマーク結果(AXE 社 蛍のみ)

各仮想化技術製品の比較表(2011 年版)

ユースケース集(第 0 次ドラフト)

OSS ライセンス WG

■ 活動概要

組込みソフトウェア開発において OSS を安心して使うためにはどのような準備が必要か、実際の利用においてはなにに注意すべきかのガイドラインの構築を目標とし活動している。

■ 活動詳細

2012/1/25 第 1 回会議

- ・具体的に何をすべきかを議論した。その結果、まず技術者、管理者の OSS にたいする意識調査が必要という結論となった。

2012/2/23 第2回会議

- ・引き続き何をすべきかを議論した
- ・OSS ソフトウェアの技術者教育での利用可能性について議論した。

2012/3/13 第3回会議

- ・アンケート手法について議論した。

■ 活動成果

今年度は「なにをすべきか」議論が主であり、アンケートの作成着手、並行してフレームワークのあるべき姿を議論し輪郭の意識調査にとどまった。

実装品質強化委員会

本委員会は、組込みソフトウェアの実装品質を強化するため、現状課題を整理し、実装品質の強化に向けた施策ガイドラインを提供することを目的に 2010 年度から活動を開始した。

2010 年度から「実装品質実態調査アンケート」を実施し JASA 会員企業における実装品質強化のためのツール利用状況、ISO 9126 で定める品質 6 特性への取り組み状況を分析を実施するとともに、非機能要件の品質向上に向けた取り組み方法の検討を加え 2 つの WG に分けて活動している。

2011 年度は 2 つの WG 活動を継続することで、基本作業をほぼ終わらせ 2012 年度のガイドライン策定へつなげることをターゲットとした。

WG1 では機能要件向けツールの整理と、各規格への対応ガイドラインを策定のための整理を行った。今年度は特に IPA で定めた組込みシステム開発の標準プロセス ESPR に準拠した開発プロセスに沿ったアンケート構成とし回答数の改善を図った。

WG2 では非機能要件明確化と対応の検討を進めるため、市場において成功している組込みシステム製品について川下ユーザの開発動向を調査した。

■ 活動詳細

本年度は合計 7 回の委員会、1 回の特別講演、2 回のアドホック会議、実装品質実態調査アンケート、及び 2 回の企業へのインタビュー調査を実施した。

特別講演は IPA/SEC が過去実施した情報処理システム向け「非機能要求とアーキテクチャ WG」における活動経緯や知見を本委員会の活動に取り込むことを目的とし、ET 展併設セミナーは本研究会の活動内容に関心のある企業等に広く伝え、フィードバックを得ることが目的である。

また、実装品質実態調査アンケートは、昨年度に引き続き実装品質強化におけるツール利用状況・品質特性認識状況と、その年単位の変化を把握することで、ガイドラインを検討するための方向性を探ることが主な目的である。

企業へのインタビューでは組込みシステム開発において競争力を持つ非機能を開発する日本人技術者や組織の共通項を明らかにすることが目的である。

2011/04/19 第1回委員会：委員会の目標設定、WG1/WG2 の運営方法確認

2011/06/07 第2回委員会：ガイドライン作成方針を検討

2011/05/25	WG1 分科会：アンケート実施項目を検討
2011/07/12	第3回委員会：アンケート配布先、分析方針を検討
2011/08/04	アドホック：非機能要件検討方法の進め方について検討
2011/08/30	第4回委員会：アドホック WG の報告、アンケートレビュー
2011/09/22	アドホック：非機能要件インタビュー実施方法を検討
2011/10/11	第5回委員会：アンケート結果のまとめ
2011/10/18	第1回 企業インタビュー調査（アルパイン様）
2011/12/07	第6回委員会：インタビュー結果の分析 & 特別講演
2011/12/13	第2回 企業インタビュー調査（ヤマハ様）
2012/02/10	第7回委員会：今年度の活動結果のまとめ

特別講演（日本 IBM 山本久好氏）

「非機能要求とアーキテクチャ WG 活動の経緯」エンタープライズ系領域の活動として実施された活動の詳細な経緯や具体的な検討内容について、IPA/SEC の情報開示の承諾を得た上で、山本氏に講演いただいた。

今後も SEC での検討結果や活動成果を、本委員会でのガイドラインに活かすべく、検討を継続していく。

2011/11/16 ET 成果報告会：当日出席者 80 名（インタビュー回答者 71 名）

■ 活動成果

- ・「実装品質実体調査アンケート」

ハードウェア研究会

本年度は、前年度の「組込みシステム」に関する経営的側面の調査検討に続いて、技術的側面からの調査を開始し議論を重ねた。次年度も委員会内外の有識者による講演や企業視察を踏まえて継続して調査を行う。その他、Bulletin JASA への寄稿、ET2011 での成果発表、講演会、他団体との情報交換を実施した。また、新たな取組みとしてプラグフェスト（応用電子機器間の相互インタフェースの実機検証イベント）を開催した。

1. 活動詳細

1) 年 5 回の全体会議、年 4 回の WG ミーティングを開催した。

2) 組込みシステム」の技術調査

以下の 5 つのテーマについて担当グループ別に審議を重ね調査を開始した。

- WG1) 組込みシステムの時代による変化（発展性）
- WG2) 組込みシステム構成におけるハードウェアの位置付けの変化
- WG3) 組込みシステム技術者に重要さを増す従来ハードウェア・スキルとは
- WG4) 組込みシステム技術者に求められる新しいハードウェア・スキルとは
- WG5) ポスト組込みシステムとは何か

3) ET2011 での前年度成果の発表

- WG1) 「組込み産業」の位置づけ
- WG2) 「組込みハードウェア」のビジネス構造
- WG3) 日本の「組込み産業」の強み
- WG4) 「組込みハードウェア」技術者育成の在り方
- WG5) 「組込み産業」市場の将来性

■ 活動成果

- ・ OpenEL for Robot Verison 0.1 仕様書
- ・ Bulletin JASA Vol. 41
「OpenEL for Robot の提案」
- ・ インターフェース 2011 年 5, 6, 7, 9 月号
「技術者から見たビジネスとしての組み込み業界（全 4 回）」

第 1 回：オープン・イノベーションの意義は？

第 2 回：知財権がオープン・イノベーションを可能にする

第 3 回：知財戦略で勝つ差別化を

第 4 回：知財戦略と国際標準化の関係は？

状態遷移設計研究会

状態遷移設計研究会は、状態遷移設計における検討漏れが少ないという特性を持つ表形式の設計手法を普及することで、組込みソフトウェア業界の発展に寄与し、ひいては製品の品質向上等を通じて国民生活の向上に貢献することを目的とする研究会である。

本研究会は 2010 年度より、状態遷移表設計を使用した製品開発において派生開発を効果的に行う手法のガイドラインのとりまとめを目標とする研究に取り組んでいる。

派生開発の品質向上と効率改善は、組込みソフトウェア業界の共通の課題であり、多くの企業の関心を集めるテーマである。年度毎の目標は、

2010 年度：仮説・検証の報告書 <<仮説>>フィーチャ・モデルがあると STM がうまく階層化できる。

2011 年度：ガイドライン案、効果の検証、2012 年度：ガイドラインの策定、公開とした。

本年度は、合計 5 回の研究会と ET2011 において公開セミナー、及び設計手法普及調査アンケートを実施した。

2011/7/13 第 1 回研究会

- ・ 「状態遷移表による SPLE 実践ガイド」レビュー
- ・ フィーチャ・モデル作成ツールの取り組み検討

2011/8/10 第 2 回研究会

- ・ 「状態遷移表による SPLE 実践ガイド」レビュー
- ・ 実証評価方法の検討
- ・ 2010 年度アンケート集計結果のレビュー

2011/10/7 第 3 回研究会

- ・ ET2011 併設セミナーの発表内容の検討
- ・ ET2011 アンケートの検討（内容、手段、要員配置など）

2011/11/16 ET2011 併設セミナー実施

- ・ 「状態遷移表による SPLE 実践ガイド」のご紹介

2011/11/16～18 ET2011 設計手法普及調査アンケートの実施

- ・ アンケートの収集

2012/2/8 第4回研究会

- ・2011年度の成果の確認
- ・2012年度事業計画の確認、予算の検討

2012/3/14 第5回研究会

- ・2012年度事業計画、予算ヒアリング結果のフィードバック
- ・2011年度アンケート集計結果のレビュー
- ・2011年度成果報告の検討
- ・2012年度年間活動スケジュールの検討

2010年度の成果として、フィーチャ・モデルによる要求の分析によって、干渉を低減し、階層的な状態遷移表の分割を導出する機能分割が可能であるとの仮説を得た。また、2011年度は、前述の仮説の詳細化および検証を計画した。仮説の詳細化では、検証可能な段階まで明確化・詳細化した手順を記述し、ガイドライン策定の雛型として「状態遷移表による SPLE 実践ガイド」を取りまとめ、ET2011の公開セミナーで紹介した。

- ・状態遷移表階層化設計への有効性
- ・状態遷移表の S/V 分離 ・ ・ ・ ・ S/V はスタティック/バリアブルの意
- ・状態遷移表における干渉を低減させる機能分割法
- ・要求仕様のシナリオとシーンへの展開
- ・要求仕様から Feature 導出

仮説の検証においては、詳細化された仮説に基づいた開発を試行し、その結果を評価、手順にフィードバックし仮説を洗練していく計画を立てたが、実践ガイドの取りまとめと並行しての開発の試行・検証作業は実施できず、ガイドラインを作成したのち、それをベースにした開発を試行し、検証／フィードバックするよう計画の見直しを行った。

モデルベース開発・検証研究会

本研究会の目的は、信頼性の高い組込みソフトウェア開発を実現する為の調査研究を行い、組込み技術者に有益な情報を提供することにある。平成23年度は組込みソフトウェアにおける制御設計の重要項目として「モデリング」と「検証」に重点をおいて調査研究を行う事とした。

モデリングに関しては、連続系と離散系の双方のモデルが存在するため、昨年度同様、組込みソフトウェア設計の根幹となる離散系モデルを主として、両モデルと検証に関しての調査研究を行った。その上で将来的には両モデルを統合した「統合モデル」とその検証手法の確立も含め、高信頼性が保証できる組込みソフトウェア開発に寄与できることを目指し、主に「モデリング実施状況のヒアリング」と「専門家セミナー」を実施した。

また九州地域組込みシステム協議会(ES-Kyushu)の九州モデル駆動開発・検証推進部会(QMD)と連携し、制御(離散)系の「雛形モデルの作成」を行った。本モデルは JASA 本部を通じて開示予定である。

今年度は、6回の委員会を開催し、専門家を招いてのセミナーを1回実施した。活動内容の詳細は以下の通りである。

1) モデリング実施状況のヒアリング

離散系／連続系モデルを問わず、モデリング導入例を持つ企業、導入が必要であろうと想定

される企業側の現状・課題などをヒアリングした。当初、異なるドメイン 4 社を候補にあげていたが、実際にヒアリングできたのは社内技術開示等の問題によりスマートエネルギー関連 1 社、ロボット開発関連 1 社に留まった。今年度対象としていた車載系関連企業に関しては来年度に実施予定とし、今後もヒアリング対象を増やす予定である。ヒアリング結果としては“連続系モデリングは実施している”、“離散系モデルは実施したいが手法・技術が確立しておらず導入できていない”、“総合試験、シミュレーションは行なっているが検証・妥当性確認は出来ていない”というものであり、モデリング・検証に関する実践的導入技術・手法の普及が最優先との結論に達し、今後は教育・実践的技法の開示などによるモデリング・検証の普及・促進するための活動を来年度の最優先課題とした。

2) 専門家セミナーの実施

セミナーは 2 部構成とし、第 1 部は「モデルベース開発・検証の未来、現在」と題し、目指すべきモデル開発と実際のモデルベース開発状況の紹介を、第 2 部では「スマートハウスにおけるモデルベース開発・検証事例」として現在進められているモデルベース開発・検証に関して、実際の現場での導入例を紹介した。また、九州地域組込みシステム協議会 (ES-Kyushu) 九州モデル駆動開発・検証推進部会 (QMD)、NPO 法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム (QUEST)、JASA 九州支部と協力連携しセミナーを開催した。参加人数は 64 名で盛況であった。またセミナー内容に関してはアンケート結果でも高評価を得た。

3) 実践的モデリング設計手法・技法

九州地域組込みシステム協議会 (ES-Kyushu) の九州モデル駆動開発・検証推進部会 (QMD) と連携し、飛行船プロジェクトをベースにした離散系モデル (含む、外因モデル) を作成した。このモデルを開示・周知する事により“離散系モデルは実施したいが手法・技術が確立しておらず導入できていない”という企業に雛形モデルとして利用してもらい、適用後に各ドメインに合わせた改良点や問題点をフィードバックしてもらう予定である。また来年度以降も ES-Kyushu の QMD と連携し、我々自身でのモデル改良も行う。

ET 事業本部

協会主催イベントとして、ET2011 及び ET West2011 を開催した。

今回は ET 開催 25 周年となる記念の年として、EDSFair との同時開催、新 ET アワードの実施、永年出展社表彰、テクニカルセッションの無料受講、記念品の配布等を行った。

また、ET West は、関西・西日本地区における唯一の専門展として開催し、過去最高となる 4,900 名を超える来場者を得ることができた。

ET 実行委員会

Embedded Technology 2011／組込み総合技術展の開催

今年は 25 周年記念として、下記の様な企画を実施した。

LSI 設計ソリューションの EDS Fair と同時開催することにより、ハードウェア設計からシステム・ソフトウェア開発技術までテクノロジーとソリューションを集約したイベントとして開催した。さらに同時開催記念として共同企画セッションを実施し、EDSFair と合わせて 28,538 名の来場者を得ることができた。

また、ET アワードも従来の展示ブース評価から一新し、出展社の新製品やソリューションを事前に第三者委員会で評価し、開催と同時に発表する方式に変更した。新 ET アワードでは、応募 57 社、82 件の申請があり、選考委員会での審査により、最優秀賞、5 分野での各優秀賞、2 つの特別賞の受賞を決定した。

永年出展表彰を設け、当初の MST より永きにわたりご出展いただいた企業 10 社に対し協会より感謝状をお贈りした。

重ねて、横浜開催 10 周年の年でもあり、横浜市による記念講演も開催した。

◆ 開催概要

会 期 2011 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）

会 場 パシフィコ横浜

主 催 (社)組込みシステム技術協会

企画推進 (株)ICS コンベンションデザイン

後 援 横浜市、情報処理推進機構、アメリカ合衆国大使館商務部、
英国大使館貿易・対英投資部

協 賛 日本貿易振興機構、科学技術振興機構、日本情報処理開発協会、
情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、日本電子回路工業会、
日本半導体ベンチャー協会、IT 検証産業協会、
Open Embedded Software Foundation、台北市コンピュータ協会、
組込みスキルマネジメント協会、情報理学学会、
高速信号処理応用技術学会、東京都立産業技術研究センター

特別協力 組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会、日本半導体商社協会、
T-Engine フォーラム、TOPPERS プロジェクト、日本 Android の会、
日本電子機器輸入協会、人間中心設計推進機構、
半導体理工学研究センター

同時開催 Electronic Design and Solution Fair' 2011 November (EDS Fair)

併催行事 ET ソフトウェアデザインロボットコンテスト (ET ロボコン)

チャンピオンシップ大会（競技会：16 日、ワークショップ：17 日）
特別企画ゾーン 「スマートエネルギーと組み込み技術」
25 周年記念企画 ①新 ET アワード（出展社の製品・技術・ソリューションを公募、選定委員会にて審査し、最優秀賞、優秀賞、特別賞を選出）
②永年出展社表彰 ③25 周年記念品
展示規模 出展社数：386 社・団体（EDSFair：80 社・団体）
小間数：774 小間（EDSFair：109 小間）
来場者数 ET：22,349 人（EDSFair：6,189 人） 計 28,538 人
カンファレンス プログラム数：140 セッション 受講者数：12,258 人

ET WEST 実行委員会

Embedded Technology West 2011／組み込み総合技術展 関西の開催
6 回目の開催となった ET West は、会期 2 日間で 4,963 名となる過去最高の来場者数を数えた。また全 59 セッションに拡大されたカンファレンスでは、前回は上回る延べ 3,932 名の受講者の参加を得た。

◆開催概要

会 期 2011 年 6 月 16 日（木）、17 日（金）
会 場 インテックス大阪
主 催 (社)組み込みシステム技術協会
企画推進 (株)ICS コンベンションデザイン
後 援 近畿経済産業局、情報処理推進機構、大阪府、大阪市、京都府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県
協 賛 関西経済連合会、組み込みシステム産業振興機構、大阪商工会議所、関西情報・産業活性化センター、近畿情報システム産業協議会、大阪科学技術センター、大阪市都市型産業振興センター、電子情報技術産業協会関西支部、大阪産業振興機構
展示規模 出展社数：118 社・団体 小間数：153 小間
来場者数 4,963 人
カンファレンス プログラム数：59 セッション 受講者数：3,932 人

V 支部活動報告

北海道支部

1. 総括

今年度の経済情勢は、東日本大震災と原発事故により日本国民に大きな傷を残したこと、タイの洪水被害、欧州の金融危機が重なり、ようやく回復基調にあった日本経済はどん底へと突き落とされた1年であった。自動車、電気製品、電子機器などの輸出産業が弱体化し、原油価格の高騰もあって31年間続いた貿易収支も赤字に転落する状態となっている。

製造業全体に元気がなく、組み込みシステムを得意とするJASA会員企業も受注面で苦しい状況が続いている。

このような状況の中、北海道支部は少数集団であるが、他の業界団体と連携し、組み込みシステムの啓蒙普及に努めてまいりましたが、単独での事業は出来なかった1年であった。

2. 会員動向

	正会員	支部会員	賛助会員	計
23年4月	2	1	0	3
24年3月	2	1	0	3

東北支部

1. 事業概要

東北支部としては、地域の組込み産業の活性化を目指して、昨年に引き続き他地域との交流や情報交換を活発化すること、ET展などを活用して地元企業の強みを情報発信することなどを積極的に行い、今後の東北支部の事業活動発展の基礎を築いたといえる。

また、支部独自・単独の事業としては、受講者を広く公募する形で技術セミナーを積極的に進め、大きな成果があった。

2. 会員の異動状況

期首支部会員数は、正会員14、支部会員4社の合計18社、期中において正会員、支部会員の入退会はなかった。期末合計は、正会員14社、支部会員4社の合計18社となった。

	正会員	支部会員	賛助会員	計
23年4月	14	4	0	18
24年3月	14	4	0	18

3. 事業実績

1) 支部例会

日時 平成 23 年 5 月 27 日 (金) 15:00～17:00
場所 山形国際ホテル
参加者 常議員 10 名、会員企業 4 名、事務局
内容 1. 平成 22 年度事業報告案、決算案について
2. 平成 23 年度事業計画案、収支予算案について
3. 常議員の改選
4. 会員企業紹介 (株)イーアールアイ、有限会社エボテック

2) 第 2 回オープンセミナー

日時 平成 23 年 9 月 2 日 (金) 15:00～17:00
場所 マリオス 18 階「184～186 会議室」
参加者 39 名
テーマ 組込みシステム産業における Android の活用
講演 ①Android 技術トレンドとハードウェア連携(株)GClue
②Android を教育と開発に利用して見えてきたものトライポッドワークス(株)
懇親会 マリオス 20 階

3) がんばれ東北！（震災復興支援）センサワークショップ

～組込みソフトウェアエンジニア向けセンサ技術講座～
日時 平成 23 年 9 月 26 日 (火) 13:00～17:00
場所 TKP 仙台カンファレンスセンター「カンファレンスホール 3A」
参加者 52 名
内容
(1) 講演会(村田製作所)
①センサネットワーク
②センサー部焦電型赤外線センサ、超音波センサなどの原理とアプリケーション例
③センサ二部新規開発センサ バイタルサインセンサ等
④センサネットワーク向け無線通信ソリューション
(2)質疑応答、フリータイム、個別質問・デモ機ご紹介
(3)懇親会「カンファレンスホール 3B」

4) 組込みスキル標準(ETSS)解説セミナー(共催：IPA/SEC)

日時 平成 24 年 2 月 24 日 (金) 13:00～17:00
場所 東北経済産業局「第一・第二会議室」
参加者 26 名

5) 協創フォーラム in 盛岡

(共催：TOHOKU 高度 IT フォーラム、とうほく組込み産業クラスター、(株)インテリジェント・コスモス研究機構、財団法人いわて産業振興センター、岩手県)

日時 平成 24 年 3 月 8 日 (金) 13:00～19:00
場所 ホテル東日本盛岡
参加者 36 名
内容

(1) 講演会

- ①組込みシステム産業における開発支援事業と東北地域との連携について
組込みシステム産業振興機構開発支援事業推進部 部長 浦野直樹様
- ②パナソニック全社のソフトウェア開発力強化の現状について
パナソニック(株) ソフトウェア QCD グループマネージャー 吉村宏之様

4. 組込み総合技術展(ET)2011

日時 平成 23 年 11 月 16 日(水)～18 日(金) 10:00～17:00

場所 パシフィコ横浜

来場者数(TOHOKU パビリオン)計 5,019 名

11/16(水) 1,453 名、11/17(木)1,914 名、11/18(金)1,652 名

出展会員企業

(株)アキタ電子システムズ、(株)イーアールアイ、(株)S J C、(有)エボテック、
東杜シーテック(株)、トライポッドワークス(株)、バイスリープロジェクト(株)、
(株)ルネサス北日本セミコンダクタ、JASA 東北支部(パネル出展)

5. 常議員会

1) 第 4 回常議員会

日時 平成 23 年 9 月 2 日(金) 13:00～15:00

場所 マリオス 18 階「187 会議室」

参加者 常議員 9 名、東北経済産業局 村田室長補佐様、事務局

内容 1. 平成 23 年度事業計画案、収支予算案、計画変更案について

2) 第 5 回常議員会

日時 平成 24 年 1 月 20 日(金) 15:00～17:00

場所 ハーネル仙台

参加者 常議員 8 名、事務局

内容 1. 平成 23 年度事業報告案、収支予算案について
2. 平成 24 年度事業計画案、収支予算案について
3. 電子通信情報学会(IEICE)東北支部との連携について
4. 事務局員の入れ替えについて

6. その他

協会本部主催の ET2011(組込み総合技術展)では会員企業の強みを情報発信し、また、TOHOKU ものづくりコリドーの協創フォーラム inJASA、高度 IT フォーラム設置事業にも積極的に参加し、交流や情報交換を活性化した。

東京支部

1. 事業概要

東京支部としては、組込み技術の普及啓発を事業の柱に、人材育成、会員間交流活性化を推進し、協会の核としての役割は十分に果たしたといえる。支部例会をはじめ諸事業も順調に推移し、今後の東京支部の事業活動発展の基礎を築いたといえる。

また、新たな試みとして合同就職説明会事業を進め大きな成果があった。

2. 会員の異動状況

期首支部会員数は、正会員 102、賛助会員 33、支部会員 3 社の合計 138 社、期中において正会員入会 6 社の入会があった一方、正会員 15 社、賛助会員 7 社、の退会があり、期末合計は、正会員 93 社、賛助会員 26 社、支部会員 3 社の合計 122 社となった。

	正会員	支部会員	賛助会員	計
23 年 4 月	102	3	33	138
24 年 3 月	93	3	26	122

3. 事業実績

1) 支部会議

日時 平成 23 年 5 月 27 日（金）15：00～ 会場 京王プラザホテル 47 階「あおぞら」

・議事

- 1) 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告書について
- 2) 第 2 号議案 平成 22 年度収支計算書について
- 3) 第 3 号議案 平成 23 年度事業計画書について
- 4) 第 4 号議案 平成 23 年度収支予算書について
- 5) 第 5 号議案 常議員選出の件

・東京支部研究開発助成金の成果発表

- ① AndroidOS ポーティングと C 言語実装研究 TDI プロダクトソリューション(株)
- ② iPad/iPhone 研究開発 (株)システムファクト
- ③ Windows デバイスドライバ開発入門 (株)パトリオット

・講演会 「Android の最新技術動向 ～日本は何をするべきか?～」

講師 社団法人 OESF 満岡秀一 氏

・懇親会 参加者 72 名

2) 常議員会

1. 第 1 回常議員会

日時 平成 23 年 5 月 12 日 15：00～ 会場 東実年金会館 3 階会議室

議題 以下の議題について討議を行った。

- (1) 平成 22 年度事業報告（案）について
- (2) 平成 22 年度収支決算（案）について
- (3) 平成 23 年度事業計画（案）について
- (4) 平成 23 年度収支予算（案）について
- (5) 役員改選について
- (6) 東京支部研究開発助成金の公募について
- (7) その他

・東京支部例会について

2. 第 2 回常議員会

日時 平成 23 年 7 月 14 日 15：00～ 会場 東実年金会館 3 階会議室

議題 以下の議題について討議を行った。

- (1) 新常議員の紹介
- (2) 平成 23 年度事業計画について
- (3) 平成 23 年度東京支部研究開発助成金について
- (4) 東京支部企画委員会（仮称）の委員募集について
- (5) 就職説明会について
- (6) 8/25 東京支部例会・講演会について

3. 第 3 回常議員会

日時 平成 23 年 11 月 7 日 15 : 00～ 会場 東実年金会館 3 階会議室
議題 以下の議題について討議を行った。

- (1) 東京支部研究開発助成金発表
- (2) 東京支部中間決算について
- (3) 就職説明会について
- (4) 東京支部活動の活性化について
- (5) ET2011 ガイドツアーについて
- (6) 忘年会について(12/5)
- (7) 見学会について(3/22)

4. 第 4 回常議員会

日時 平成 24 年 2 月 9 日 15 : 00～ 会場 東実年金会館 3 階会議室
議題 以下の議題について討議を行った。

- (1) 平成 22 年度収支報告（予測）について
- (2) 平成 23 年度収支予算（案）について
- (3) 平成 23 年度東京支部年度計画（案）について
- (4) 平成 23 年度東京支部事業計画（案）について
- (5) 支部研究開発助成金の公募について
- (6) 3/24 見学会について

3) 支部例会等

1. 支部例会／講演会

日時 平成 23 年 8 月 25 日 15 : 00～ 会場 東実年金会館 4 階会議室
講演 「今求められる戦略的な新卒人材採用」
講師 (株)ジョブウェブ 代表取締役社長 佐藤孝治
会社ご紹介 有限会社シンビー殿、(株)クレスコ殿
懇親交流会(参加者 38 名)

2. ET2011 ガイドツアー

日時 平成 23 年 11 月 17 日 13 : 00～15:00 会場 パシフィコ横浜内
ET2011 展示会のガイドツアーを行った。東京支部の若手 4 名が参加。
①ET2011 見どころ解説
②ET2011 会場内見学

3. 支部例会 / 年末講演会

日時 平成 23 年 12 月 5 日 15 : 00～19:30
会場 六本木アカデミーヒルズ 49「カンファレンスルーム 1+2」

- ①支部研究開発発表会（3社3件）
- ②新入会員ご紹介（2社）
- ③年末講演会1「実用化が始まった動的再構築型ハードウェア
（～60年ぶりの新しい組込み開発手法によるデータ処理の世界～）」
講師 根木勝彦氏
- ④年末講演会2「チョイ悪親父のジャズウンチク超入門講座」
講師 高野雲氏
- ⑤懇親会 参加者59名

4. 就職説明会

日時 平成24年3月21日13:00～ 会場 東実年金会館3階・4階会議室
参加企業 11社 参加学生 38名

5. 支部例会 / 見学会

日時 平成24年3月22日13:30～19:00
会場 日産自動車横浜工場
日産自動車横浜工場の見学ツアーを行った。
懇親会 参加15名

中部支部

1. 事業概要

中部支部としては、組込みシステム技術業界の発展、技術者の育成、組込み技術の普及啓発を事業の柱に、会員間交流活性化を推進した。産業視察事業も国内視察（仙台）と海外視察（台北）を実施した。講演会・セミナー事業をはじめ諸事業も順調に推移し、平成24年度から開始する研究会準備会も3回行い準備することが出来、今後の中部支部の事業活動発展の基礎を築いた。

2. 会員の異動状況

期首に正会員1社の退会があり、期首の支部会員数は、正会員14、賛助会員0、支部会員1社の合計15社であった。期中において正会員1社の入会があった。賛助会員、支部会員の入退会はなかった。期末合計は、正会員15社、賛助会員0社、支部会員1社の合計16社となった。

	正会員	支部会員	賛助会員	計
23年4月	14	1	0	15
24年3月	15	1	0	16

3. 事業実績一覧

正副支部長会	2回
常議員会	2回
支部会議・懇親会	1回
定例会	5回
産業視察	2回

ミドル会	4 回
見学会	1 回
講演会・セミナー	4 回
研究会（アジャイル）準備会	3 回
協賛事業	4 回

4. 事業実績

1) 正副支部長会

① 第 1 回正副支部長会

日時 平成 23 年 11 月 30 日 17:00～20:30

場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋

参加人数 5 名

内容（議題）

- 1) 一般社団法人化に伴う支部交付金制度廃止(案)の説明（総務委員会資料）
- 2) 支部として支部交付金制度廃止(案)についての意見交換
- 3) 公益事業の考え方と支部の対応方法
- 4) その他

② 第 2 回正副支部長会

日時 平成 24 年 2 月 8 日 15:00～17:00

場所 東海ソフト㈱ 会議室

参加人数 5 名

内容（議題）

- 1) JASA の会計制度について
- 2) 支部関係取引の会計処理
- 3) 支部事業番号について
- 4) 平成 24 年度予算（収支計算書、事業分解、各事業見積り）
- 5) その他

2) 常議員会

① 第 1 回常議員会

日時 平成 23 年 4 月 19 日(火) 15:30～17:30

場所 三幸電子 本社 会議室

参加人数 10 名

内容(議題)

- 1) 平成 22 年度事業実績報告案について
- 2) 平成 22 年度会計報告案について
- 3) 新役員案について
- 4) 平成 23 年度事業計画案について
- 5) 平成 23 年度予算案について
- 6) エレショーセミナー・研究会についての JASA 本部の対応
- 7) 平成 23 年度総会の日程について
- 8) その他

配布資料

- 1) 1 年間スケジュール
- 2) 参加者名簿

3) 協賛事業リスト

② 第2回常議員会

日時平成23年12月8日(木) 17:00～17:30

場所会議室「蔦茂」

参加人数 10名

内容(議題)

- 1) 第3-4半期決算予測
- 2) 名古屋産業振興公社への事務委託について
- 3) 組込みシステム技術セミナーの実施結果
と今後のエレショー併催セミナーの取組みについて
- 4) アジャイル研究会・勉強会(仮称)について
- 5) 平成23年度事業日程、次回定例会(平成24年度予算枠組み)の日程
- 6) その他

3) 支部会議・懇親会 平成23年5月24日(火)

① 支部会議(15:30～20:00)

場所 ザサイプレスメルキュールホテル名古屋会議室志野

内容(議題)

- 1) 平成22年度事業報告書(案)について
- 2) 平成22年度会計報告書(案)について
- 3) 平成23年度事業計画書(案)について
- 4) 平成23年度予算書(案)について
- 5) 新常議員(案)の承認の件

参加人数 15名(委任状3名)

② 講演会(16:10～17:30)

講演題目「最近の経済動向と中部経済」(仮題)

講師 (株)日本総合研究所 調査部長/チーフエコノミスト藤井 英彦

参加人数 31名

③ 懇親会(17:30～19:00)

場所 ザサイプレスメルキュールホテル名古屋

参加人数 31名

4) 定例会

① 第1回定例会

日時 平成23年6月21日(火) 16:30～17:30

場所 愛知県産業技術研究所

参加人数 11名

内容(議題)

- 1) 第1回組込みシステム技術講演会の概要
- 2) 東日本震災の調査について
- 3) 組込みシステム技術セミナー(中部エレクトロニクスショー併催)の計画
- 4) その他

② 第2回定例会

日時 平成23年8月3日(水) 16:30～17:00

場所 ウインクあいち 特別会議室 1307

参加人数 12 名

内容（議題）

- 1) 海外産業視察—COMPUTEX TAIPEI2011 の報告
- 2) 中部エレクトロニクスショーでの組込みシステム技術セミナーについて
- 3) 第 1-4 半期決算報告
- 4) 今後の事業計画について
- 5) 東日本震災の現地調査
- 6) 第 2 回講演会—形式手法の計画
- 7) その他

③ 第 3 回定例会

日時 平成 23 年 10 月 12 日(水) 17:00～18:00

場所 スポーツ名古屋会議室

参加人数 11 名

内容（議題）

- 1) 平成 23 年度中間決算について
- 2) 中部エレクトロニクスショーでの組込みシステム技術セミナーについて
- 3) 第 2 回講演会、第 3 回講演会のアンケート結果について
- 4) 研究会の計画について
- 5) 東日本産業視察について
- 6) 今後の事業計画（忘年会の計画）
- 7) その他

④ 第 4 回定例会・忘年会

a 定例会

日時 平成 23 年 12 月 8 日(木) 17:30～18:30

場所 会議室「蔦茂」

参加人数 17 名

内容（議題）

- 1) 第 3-4 半期決算予測
- 2) 名古屋産業振興公社への事務委託について
- 3) 組込みシステム技術セミナーの実施結果と今後のエレショー併催セミナーの取組みについて
- 4) アジャイル研究会・勉強会（仮称）について
- 5) 平成 23 年度事業スケジュールについて
- 6) その他

b 忘年会

日時 平成 23 年 12 月 8 日(木) 17:30～18:30

場所 会議室「蔦茂」

参加人数 22 名

⑤ 第 5 回定例会

日時 平成 24 年 3 月 7 日(木) 15:00～17:00

場所 三幸電子(株) 会議室

参加人数 10 名

内容（議題）

- 1) 平成 23 年度期末決算予測

- 2) JASA の会計制度について
- 3) 支部関係取引の会計処理について
- 4) 平成 24 年度事業計画について
- 5) 平成 24 年度予算案
- 6) 研究会準備会の実施結果について
- 7) その他

5) 産業視察事業

① 海外産業視察（台北）

日程 平成 23 年 6 月 1 日（水）～6 月 4 日（土） 3 泊 4 日

視察先 台湾 台北市

参加人数 10 名

内容

- 1) COMPUTEX TAIPEI 2011 の見学
- 2) TCA、JASA 近畿支部、東京支部、本部との交流
- 3) 台北市の電気商店街の見学（参加者の 1 部）

6) ミドル会

① 第 1 回ミドル会

日時 平成 23 年 5 月 24 日（火） 17:30～20:00

場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋

参加人数 9 名

内容

- 1) ミドル会会長の説明
- 2) 会員の自己紹介

② 第 2 回ミドル会

日時 平成 23 年 6 月 14 日（火） 17:30～19:00

場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋

参加人数 9 名

内容

- 1) ミドル会会長の説明
- 2) 支部長の時事講話
- 3) アンケート結果を元にした自己紹介
- 4) COMPUTEX TAIPEI 2011 の見学報告

③ 第 3 回ミドル会

日時 平成 23 年 7 月 12 日（火） 17:30～19:00

場所 ヒルトン 名古屋

参加人数 10 名

内容

- 1) ミドル会会長の説明
- 2) 支部長の時事講話ー世界経済と日本 歴史に学ぶ
- 3) アンケートによる会員（欠席者）の自己紹介
- 4) 参加者の意見交換
- 5) 次回使用するテキストの紹介

「リーダーシップが面白いほど身につく本」 著者 守谷 雄司

④ 第4回ミドル会

日時 平成23年10月3日(火) 17:30～19:00

場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋

参加人数 9名

内容

- 1) ミドル会会長の説明
- 2) 支部長の時事講話
- 3) テキストについての意見交換
- 4) アジャイル講演会についての意見交換
- 5) 自由形式での意見交換
 - ・テキスト「リーダーシップが面白いほど身につく本」

7) 見学会

日時 平成23年6月21日(火) 14:00～16:30

場所 愛知県産業技術研究所

参加人数 15名

内容

- 1) 愛知県産業技術研究所の概要説明
- 2) 工業技術部の紹介
- 3) 見学(燃料電池研究室, 電子顕微鏡観察と破損部品の観察
非接触 3D 精密測定, 機能性木材の開発, 振動試験機と包装技術
リハビリ支援ロボット, 3次元 CAD を使った加工技術)

8) 講演会・セミナー

① 第1回講演会

日時平成23年8月3日(水) 15:00～16:30

場所 ウィンクあいち 特別会議室 1307

参加人数 43名

講演題目「車載組込みと Android」

講師 NEC ソフトウェア中部システム・ソフトウェア事業部 加藤 憲昭 氏

内容

- 1) 概要／ねらい
- 2) スマートフォンでの Android
- 3) 組込みと Android
- 4) 今後の展開／課題
- 5) 製品のご紹介

② 第2回講演会

日時平成23年8月31日(水) 14:00～16:00

場所 ウィンクあいち 特別会議室 1008

参加人数 40名(内、非会員6名)

講演題目 「組込みシステムとソフトウェア検証」

講師 名古屋大学大学院情報科学研究科 教授 結縁 祥治 氏

内容

- 1) 計算モデル
- 2) プログラミング言語
- 3) プログラム理論とソフトウェア検証
- 4) 形式手法

5) 時間の扱い

③ 第3回講演会

日時 平成 23 年 10 月 3 日 (水) 15:00～16:30

場所 ウィンクあいち 特別会議室 1308

参加人数 43 名 (内 非会員 7 名)

講演題目 「組込みシステムにおけるアジャイル開発手法の適用」

講師 (株)テクノロジックアート

アジャイルグループリーダー 中佐藤 麻記子

内容

- 1) アジャイル開発手法の目標
- 2) アジャイル開発手法の特徴
- 3) アジャイルに対する疑問
- 4) IPA ESPR
- 5) オブジェクト指向とアジャイル

④ 講演会—組込みシステム技術セミナー

日時 平成 23 年 11 月 15 日 (火) 10:50～15:20

場 所 名古屋国際会議場 2 号館 2 階 222-223 号会議室

主催 (社)組込みシステム技術協会中部支部

共催 中部エレクトロニクス振興会

後援 (社)愛知県情報サービス産業協会 名古屋商工会議所

(財)名古屋産業振興公社 JaSST' 11 Tokai

車載組込みシステムフォーラム

プログラム

- 1) 演題 1 ”聴覚神経機構を FPGA 上に実現したサウンドウォッチャー”
～ 聴覚障がい者や高齢者のための音の見張り番～
講師 名古屋工業大学大学院おもひ領域
創成シミュレーション工学専攻 岩田教授
- 2) 演題 2” ALTERA FPGA を利用した組込み設計の最新動向”
講師 (株)アルティマ 応用技術課フィールド
アプリケーションエンジニア 成瀬 賢亮 氏
- 3) 演題 3 ” FPGA の技術進化と拡大するその適用範囲”
講師 ザイリンクス(株)エンジニアリング本部
FAE マネージャー 加藤 勝彦 氏

参加人数 60 名

9) 研究会 (アジャイル) 準備会

① 第1回準備会

日時 平成 23 年 12 月 12 日 (月) 16:30 ～ 18:30

場所 萩原電気(株) 高岡オフィスカスタマールーム 1

内容

- 1) アジャイルの概要説明 (株)テクノロジックアート 中佐藤 麻記子氏
- 2) 参加企業の得意分野の紹介
- 3) アジャイルについての考え方と取組み方法

参加人数 10 名

② 第2回準備会

日時 平成 24 年 2 月 2 日 (木) 15:00～19:00

場所 東海ソフト㈱ 会議室

内容

- 1) 講演 ”アジャイル開発入門”

講師 NPO 法人ドット NET 分散開発ソフトピア・センター牧 隆司 氏

- 2) 意見交換

参加人数 11 名

③ 第 3 回準備会

日時 平成 24 年 3 月 14 日 (水) 15:00 ～17:00

場所 (株) ヴィッツ 会議室

内容

- 1) 講演” ET ロボコンの概要”

講師 (株) イーシーエス 遠藤 武志 氏

- 2) 意見交換

参加人数 14 名

10) 協賛・後援講演会

① 行事名 ソフトウェアテスト設計入門

日時 平成 23 年 5 月 26 日 (木) 13:30～16:30

場所 名古屋市工業研究所 管理棟 3 階 第 2 研修室

主催 名古屋市工業研究所, 名古屋産業科学研究所, システム技術研究会

協賛 組込みシステム技術協会中部支部, 中部アイティ協同組合,

中部エレクトロニクス振興会

参加人数 58 人

② 行事名 ソフトウェアテストシンポジウム 2011 東海

日時 平成 23 年 11 月 11 日 (金) 10:00 ～ 18:30

場所 名古屋市中心企業振興会館 4F

主催 JaSST' 11Tokai 実行委員会

協賛 組込みシステム技術協会中部支部

講演会 メインテーマ” やろまいか! 東海”

参加人数 140 名

③ 行事名 車載組込みシステムフォーラム 2012

日時 平成 24 年 1 月 30 日 (月) 10:00 ～ 16:40

場所 ナディアパーク 3 階 デザインホール

主催 車載組込みシステムフォーラム (ASIF)

後援 独立行政法人情報処理推進機構, 組込みシステム技術協会中部支部

参加人数 180 名

④ 行事名 組込みシステム開発セミナー “RX62N マイコンで動く MP3 プレーヤーの開発”

日時 平成 24 年 3 月 16 日 (金) 9:30 ～ 16:30

場所 名古屋市工業研究所 コンピューター研修室

主催 名古屋市工業研究所、システム技術研究会

協賛 組込みシステム技術協会中部支部, 中部アイティ協同組合

中部エレクトロニクス振興会

参加人数 13 名

1. 北陸支部会議の開催

4月7日(木) 午後7時から 北陸支部会議を開催した。

平成22年度の事業実施報告・決算報告及び平成23年度の事業計及び収支予算案について審議した。

2. 福井県情報システム工業会理事会への参加

福井県情報システム工業会理事会へ参加し、以下の要請・報告等を行った。

・4月15日(金)

平成23年度に福井工業大学が実施する「産学連携講座」の開催スケジュールについて説明し、協力を要請した。

・5月25日(水)

福井県安全環境部環境政策課が実施する「平成23年度民間事業所省エネ化推進事業」について説明した。

・7月28日(木)

福井県経済団体連合会が主催する「第5回福井県経済界サマースクール」への参加要請及びIT業界向け研修への受講要請を行った。

・9月29日(木)

① 福井県経済団体連合会が主催した「第5回福井県経済界サマースクール」への参加状況の報告を行った。

② 福井工業大学が主催した産学連携講座開催状況

・12月8日(木)

① (公財)が主催する研修「速習！ソーシャルアプリ」への参加要請

② 近畿経済産業局作成の教材による「ベンダ向けクラウドビジネス参入のための研修会」開催の提案を行い、2月17日(金)に実施することとした。

3. 産学官連携

平成23年度計画として福井工業大学が実施する「産学連携講座」に講師として参加した。

講座の開催にあたっては、福井県情報システム工業会の理事会において協力要請を行い、6企業12名の参加となった。

4. 福井県IT産業団体連合会役員会への出席

6月17日(金)

・ふくい産業支援センターが実施する「ふくいソフトウェアコンペティション2011」「スマートフォン／クラウドセミナー&交流会」の開催案内があった。

5. 「ふくいITフォーラム2011」への後援

福井県IT産業団体連合会が主催する「ふくいITフォーラム2011」

(10月20日(木)、21日(金)福井県産業会館1号館)に後援参加した。

入場者数は、17,411人(20日 8,305人 21日 9,106人)

6. 視察研修の実施

平成 24 年 2 月 24 日(金)～27 日(月) 上海、蘇州海外視察を実施した。
視察施設 ・富士通(中国)情報系統有限公司(FCH)
・江蘇富士通通信技術有限公司(JFTT)
・福井県上海事務所 ・上海中企泰律師(法律)事務所
参加者…会 4 名

近畿支部

< 総括 >

近畿支部として、今年度も委員会活動を中心とした様々な活動を展開した。
会員企業にメリットが出せる事業を心掛け、メンバー協力のお陰で各活動も順調に推移し、当初の年度計画が実施出来た。
しかしながら、各事業活動の参加人数は横ばいで、固定化される傾向に在るのも事実である。
これらの事は今後の課題で、次年度に改善していく必要があり、支部活動の現実を見直す時期と認識し、改革する事がこれからの課題である。
支部活動の原点である会員企業の協業(発展)が、さらに拡大出来る様、今後に繋げて行きたい。

< 支部活動 >

1. 近畿支部会議(第 25 回)

平成 23 年 4 月 27 日(水)於：大阪産業創造館
・平成 22 年度事業報告及び収支決算報告
・常議員の改選
・平成 23 年度事業計画及び収支予算報告
出席者：27 名(+委任状提出：7 名)

2. 常議員会

支部事業計画に基づいた具体案の検討他、各種審議を行った。

- | | |
|---------------------------------|--------|
| ① 平成 23 年 5 月 25 日(水)於：大阪産業創造館 | 22 名出席 |
| ② 平成 23 年 7 月 14 日(木)於：京都工業会館 | 20 名出席 |
| ③ 平成 23 年 9 月 27 日(火)於：大阪産業創造館 | 22 名出席 |
| ④ 平成 23 年 11 月 25 日(金)於：大阪産業創造館 | 21 名出席 |
| ⑤ 平成 24 年 2 月 22 日(水)於：大阪産業創造館 | 24 名出席 |

経済産業省近畿経済産業局との意見交換会

- | | |
|---------------------------------|--------|
| ① 平成 23 年 5 月 25 日(水)於：大阪産業創造館 | 22 名出席 |
| ② 平成 23 年 9 月 27 日(水)於：大阪産業創造館 | 22 名出席 |
| ③ 平成 23 年 11 月 25 日(金)於：大阪産業創造館 | 21 名出席 |
| ④ 平成 24 年 2 月 22 日(水)於：大阪産業創造館 | 22 名出席 |

3. 事業委員会

支部では 3 つの事業委員会を置き、

- ① 総務・企画委員会にて(業界経営基盤の強化、推進支援)
 - ② 技術・業務委員会にて(情報処理技術の高度化対応)
 - ③ 広報・マーケット委員会にて(市場の開発と知名度向上)
- を目的に、各種活動を推進した。

4. 本部との連携による活動推進

本部活動への参加、協力、支援を行うとともに、本部の協力を得て、支部活動を活性化、相互連携を推進した。

5. 行政や他団体との連携・協調推進

官公庁及び関係諸団体との連携を継続的に行い、会員企業に有益な業界関連情報を提供した。

- ・近畿経済産業局
- ・近畿情報システム産業協議会（KISA）
- ・関西電子情報産業協同組合（KEIS）
- ・(財)大阪科学技術センター（OSTEC）
- ・(財)関西情報産業活性化センター（KIIS）

< 委員会事業活動 >

1. 総務・企画委員会

(1) 総務交流フォーラム（総務諸問題研究部会）

各社管理部門担当者の人材育成、ネットワークの構築に取り組んだ。
セミナー及び懇親会を3回開催。

- ① 平成23年9月6日(火)於：大阪会館 15名出席
講演「労働時間を考える」特定社会保険労務士 坂元浩造氏
- ② 平成23年12月5日(月)於：大阪科学技術センター 11名出席
講演「危険な就業規則10のポイント」
特定社会保険労務士キャリアカウンセラー 住岡和博氏
- ③ 平成24年2月15日(水)於：大阪科学技術センター 15名出席
講演「災害に備えた雇用管理」山田総合法律事務所 山田長正弁護士

(2) 新春 IT 振興フォーラム及び賀詞交歓会

平成24年1月11日(水)於：大阪科学技術センター

- ・新春 IT 振興フォーラム

「エネルギーの情報化」～需要家による需要家のための

スマートエネルギーマネジメントの実現を目指して～

京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻教授松山隆司氏

- ・賀詞交歓会（近畿情報システム産業協議会加入7団体主催）

199名出席（うち JASA 近畿支部：26名）

2. 技術・業務委員会

(1) 技術交流フォーラム（IT システム研究会）

各社技術担当者が集まり、情報収集、意見交換を行った。市場開発交流フォーラムと合同で2回開催。

(2) 会員月例会（近 JASA フォーラム）

常議員会終了後、4回開催。

会員企業間の情報・意見交換を目的に各社企業紹介を主に行った。

- ① 平成 23 年 5 月 25 日(水)於：大阪産業創造館 22 名出席
(株)三基システムズ 代表取締役 上野 瑛爾氏ご担当
- ② 平成 23 年 9 月 27 日(火)於：大阪産業創造館 27 名出席
(株)コア関西カンパニーマイコンシステム部部长清原隆章氏
エイジシステム(株)エンベデッドソリューション部河野浩幸氏
(株)アサヒ電子研究所代表取締役和倉慎治氏
- ③ 平成 23 年 11 月 25 日(金)於：大阪産業創造館 23 名出席
(株)シー・シェルコーポレーション大石正則氏、大西教之氏
- ④ 平成 24 年 2 月 22 日(水)於：大阪産業創造館 24 名出席
(株)システムプランニング代表取締役高柳光雄氏
(株)コミュニケーション・テクノロジー代表取締役 松本浩樹氏

(3) 技術セミナー

外部から講師を招き、会員企業の技術社員を対象にセミナーを4回行った。

- ① 平成 23 年 6 月 16 日(木)17 日(金)於：インテックス大阪
ET West2011 カンファレンス受講 12 名出席
- ② 平成 23 年 8 月 24 日(水)於：大阪産業創造館 15 名出席
講演「ソフトウェアテスト設計入門」
講師ルネサスマイクロシステム(株) 名野響氏、館伸幸氏
- ③ 平成 23 年 10 月 26 日(水)於：大阪科学技術センター 37 名出席
特別講演「マルチコア向けソフトウェア開発の基礎と最新動向」
講師 名古屋大学大学院情報科学研究科枝廣正人先生
第3回近 JASA セミナー
講演「マルチコアプロセッサの能力をソフトウェアで活用するための開発手法」
講師 (株)日新システムズ 水木 竜彦氏
講演「Android 開発における問題点と効率的なソフトウェア検証手法」
講師 (株)日新システムズ 大野 高司氏
- ④ 平成 24 年 1 月 25 日(水)於：大阪産業創造館 19 名出席
講演「Android+NFC の革命」
講師 (株)ブリリアントサービス 杉本 礼彦氏

3. 広報・マーケット委員会

(1) 市場開発交流フォーラム（ビジネス開発研究部会）

交流フォーラムと懇親会を技術交流フォーラムと合同で2回開催。
会員企業を訪問、各社が抱える問題を提起、議論を行った。

- ① 平成23年7月14日(木)於：京都工業会館 19名参加
㈱たけびしの「たけびしフェア」見学

- ② 平成23年11月8日(火)於：大阪科学技術センター 11名参加
近畿経済産業局主催「ソフトウェア業界のための使える特許ワークショップ」

(2) 国内・海外視察研修

支部では「アジアのコンピュータビジネス」の実現に取り組んできた。今年度は台湾・台北で開催された Computex Taipei を視察した。

平成23年6月1日(水)～4日(土)3泊4日 17名参加

内容:Computex Taipei 2011 展示会場視察、TCA（台北コンピュータ協会）加盟企業との懇親会（本部、中部支部）

4. ET WEST2011（組込み総合技術展 関西）にて展示会及び

カンファレンスを開催。

平成23年6月16日(木)～17日(金) 於：インテックス大阪

出展社：118社・団体（153小間）来場者：4,963名（2日間）

5. 経済産業省近畿経済産業局の活動

近畿経済産業局・情報政策課とは意見交換会を行っているが、5月25日(水)には「平成23年度情報政策関連予算の概要」について説明していただいた。

9月27日(火)には組込みシステム産業振興機構の吉村事務局長より、同機構の取り組みについての話があった。

11月25日(金)には「ものづくり中小企業支援策について」～戦略的基盤技術高度化支援事業のご紹介、及び平成24年度概算要求について説明があった。

2月22日(水)には「近畿経済産業局の組込みシステム産業支援について」～関西の産業活性化への近道～の説明があり、その後質疑応答を行った。

九州支部

1. 第25回 九州支部 支部会議

- (1) 日時 平成23年4月20日(水)16:30～17:30

- (2) 場所 九州産業技術センター 3F

- (3) 議題

・ -支部長挨拶 -

1. 北九州学園都市産学協同PR … 北九州市産業経済局
2. 平成23年度 事業計画および収支予算
3. 平成22年度 決算報告
4. その他
5. 懇親会

2. 平成 23 年度 福岡市組込みソフト開発応援団 総会

- (1) 日 時 平成 23 年 5 月 18 日(月) 11:00～12:00
- (2) 場 所 福岡 SRP センタービル 2F
- (3) 議 題
 - 1. 平成 22 年度事業報告、収支決算報告について
 - 2. 平成 23 年度事業計画案、収支予算案について

3. 平成 23 年度九州組込みシステム協議会理事会（運営主体：es-Kyushu）

- (1) 日 時 平成 23 年 7 月 15 日(金)13:45～14:00
- (2) 場 所 福岡 SRP センタービル 特別会議室
- (3) 内 容 JASA 九州支部より、西支部長が理事に就任（前支部長と交代）

4. 九州組込みシステム協議会 平成 23 年事業年度 通常総会（運営主体：es-Kyushu）

- (1) 日 時 平成 23 年 7 月 15 日(金)14:00～15:00
- (2) 場 所 福岡 SRP センタービル SRP ホール
- (3) 議 題 本部より門田専務理事、業務部母里主任が出席
 - ・平成 22 年度事業報告/収支決算報告
 - ・平成 23 年度事業計画
 - ・平成 23 年度常議員の選任
- (4) 講 演
 - ・IPA/SEC の活動紹介 IPA/SEC 松田晃一所長
 - ・九州モデル駆動開発検証推進部会の紹介 九州大学 久住憲嗣先生

5. 組込みシステム「グリーン ET」セミナー（運営主体：es-Kyushu）

- (1) 日 時 平成 23 年 7 月 15 日(金)15:00～17:30
- (2) 場 所 福岡 SRP センタービル SRP ホール
- (3) 内 容
 - ・デンマークにおける ICT、農業、エネルギーへの成長戦略
中島健祐 デンマーク大使館 担当官
 - ・センサーネットワークと農業への応用
高橋 茂 三菱総研 主任研究員
 - ・ICT も活用した農業経営の紹介
坂上 隆 (株)さかうえ 社長

その後、交流会が 17:45～19:15 で行なわれ、約 60 名が参加

6. 7 月度常議員会

- (1) 日 時 平成 23 年 7 月 20 日(水)16:30～17:30
- (2) 場 所 九州産業技術センター 3F
- (3) 議 題
 - ・ -支部長挨拶 -
 - 1. ET ロボコン 2011 について
 - 2. ES-Kyushu 総会について
 - 3. その他
 - 4. 懇親会（18:00～20:00）

7. ET ロボコン 2011 九州地区大会 第一回試走会（運営主体：NPO 法人 QUEST）

- (1) 日 時 平成 23 年 7 月 23 日(土) 11:00～12:00
 - (2) 場 所 九州産業大学
 - (3) 出 席 松尾常議員
- 参加人数：34 チーム（136 名） 実行委員：18 名

8. ET ロボコン 2011 九州地区大会 第二回試走会（運営主体：NPO 法人 QUEST）

- (1) 日 時 平成 23 年 8 月 20 日(土) 11:00～12:00
 - (2) 場 所 九州産業大学
 - (3) 出 席 西支部長
- 西支部長より挨拶が行なわれた。
- 参加人数：32 チーム（128 名） 実行委員：18 名

9. ET ロボコン 2011 九州地区大会（運営主体：NPO 法人 QUEST）

- (1) 日 時 平成 23 年 9 月 3 日(土)～9 月 4 日(日) 10:00～16:30
 - (2) 場 所 九州産業大学
 - (3) 出 席 西支部長、大北副支部長、松尾常議員、松尾事務局
 - (4) 報 告
- 3 日：競技会
- 4 日：表彰式およびワークショップ
- 台風の影響で大風が吹く中、九州各県から 37 チームの参加があった。
- ベーシックステージを 30 秒台のスピードでクリアし会場を沸かせるシーンや、シーソーの<ダブル>クリアでは拍手喝采など、参加者および観客(のべおよそ 300 人)が一体となって大きな盛り上がりを見せる大会となった。

■総合部門

- 優勝：SDC バンビーズ 佐賀電算センター
- 準優勝：Nobu3SW(R) 日本システムウェア
- 3 位：SOROT☆FCSK 福岡 CSK
- 4 位：はばたき隊 九州大学院システム情報科学府情報学専攻
- 5 位：KTEC 九州技術教育専門学校

10. 10 月度常議員会

- (1) 日 時 平成 23 年 10 月 12 日(水) 16:30～17:50
 - (2) 場 所 九州産業技術センター 3F
 - (3) 議 題
- 1. 支部長挨拶
 - 2. ET ロボコン 2011 九州大会について（報告）
 - 3. 今後の九州支部活動内容について（門田専務理事より）
 - 4. その他
 - ・九州・国際テクノフェア 2011 出展取り止めについて
 - ・北九州学術研究都市見学会について
 - 5. 懇親会（18:00～20:30）

11. 北九州学術研究都市見学会

- (1) 日 時 平成 23 年 11 月 9 日(水) 11:30～16:30
- (2) 場 所 北九州学術研究都市（北九州市若松区ひびきの）

- (3) 参加者 5名
- (4) 内 容
 - 11:30～ 昼食会
 - 13:40～ 北九州学術研究都市見学
 - ・施設見学 ・進出支援内容説明 等

12. JaSST' 11 Kyushu【協賛】

- (1) 日 時 平成 23 年 11 月 25 日(金) 9:30～18:00
- (2) 場 所 システム LSI 総合開発センター 会議室 A・B
- (3) 内 容
 - 1. チュートリアル「実践！CEGTest で原因結果グラフを作ってみよう」
加瀬 正樹氏（ニフティ）
 - 2. 基調講演
「山陽新幹線の安心・信頼の確保と、九州新幹線全線開業への対応について」
尾縄 大輔氏（西日本旅客鉄道）
 - 3. ポスター発表およびスポンサーによる発表
 - 4. 招待講演「テスト自動化の前に押さえておきたい3つのポイント」
湯本 剛（日本 HP）
 - 5. 情報交換会

13. JASA モデルベース開発・検証セミナー【共催】

- (1) 日 時 平成 23 年 12 月 1 日(水) 13:30～18:00
- (2) 場 所 システム LSI 総合開発センター 会議室 A・B
- (3) 内 容 参加者 64 名
 - 1. 挨拶 （大北 JASA 九州副支部長）
 - 2. JASA モデルベース開発・検証研究会活動報告
福田 晃氏（JASA モデルベース開発・研究会委員長）
 - 3. モデルベース開発から見た CPS(サイバー・フィジカル・システム)
中島 震氏（国立情報学研究所教授）
 - 4. 連続系と離散系のモデリングと両者を満足する組込みソフトウェアの基礎
二上 貴夫氏（東陽テクニカ）
 - 5. 未来のスマートコミュニティを実現する先進的エネルギーシステム
～そのビジョンと技術～ 中村良道氏（スマートエナジー研究所）
 - 6. モデルベース開発技術の現状と今後の動向
有馬 仁志氏（dSpace JAPAN）
 - 7. ES-KSYUSHU 九州モデル駆動開発・検証推進部会について
久住 憲嗣氏（九州大学）
 - 8. 挨拶 （JASA 門田専務理事）
 - 9. 懇親会（18:00～20:30）参加者 23 名

14. 本部支部打ち合わせ

- (1) 日 時 平成 23 年 12 月 2 日(金) 9:00～11:00
- (2) 場 所 マイクロコート㈱ 会議室
- (3) 参加者 門田専務理事、鈴木事務局長、大北副支部長、松尾前支部長
九州支部事務局（5 名）
- (4) 内 容 公益法人下での支部運営についての説明・協議
・基本方針 ・予算編成指針

15. 九州支部 25 周年記念セミナー

- (1) 日 時 平成 24 年 2 月 10 日(金) 15:00～18:30
- (2) 場 所 九州産業技術センター 3F
- (3) 参加者 43 名
- (4) 内 容
 - ◆講演 15:30～17:00
「IT で日本を元気に！ ～震災に直面した BCP と IT 復興支援～」
トライポッドワークス代表取締役社長 佐々木 賢一氏
 - ◆懇親会 17:00～18:30

以 上